

法人設立  
20周年記念事業

# いのちのちの基金

本誌「Life Like」の発行元である「エヌコム」の関連会社で京都の総合保険代理店「エスアールエム」が、今年20周年を迎えます。その記念事業として、新たに基金を設立しました。昨日、基金の助成先が決定し、「エスアールエム」の柴山代表と渋谷さん、また基金設立のサポートを行う「京都地域創造基金」の担当者が助成先へはじめて訪問しました。

「いのちの基金」  
助成先は、  
京都DARCに  
決定しました!

京都DARCとは?

薬物依存症からの回復を支援する団体として2002年に発足。今回の助成を受けて、薬物依存者の家族ケアに取り組む。心理カウンセラーの友杉さんにお話を伺った。



**柴山代表** この度、私どもの「いのちの基金」で「京都ダルク」を助成先には選んではいただきませんでした。私たちがこれから支援をさせていただきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

**渋谷さん** 「京都ダルク」の事業についてお聞きしたいのですが、現在どのような活動をされているのでしょうか？ 教えてくださいませんか。

**友杉さん** この度は本当にありがとうございます。私たちが、例えば、薬物依存症者のためのリハビリテーション施設の運営などの薬物依存症からの回復を支援する様々な活動を行っています。現在、リハビリテーション施設は入所と通所があります。薬物と言っても、麻薬や覚せい剤だけではなく、風邪薬や向精神薬も大量に服用することがクセになって薬物依存症に陥る方もいます。薬物非合法と誤解されることが多いのですが、合法、非合法を問わず、依存症を引き起こす薬物はあります。今回の支援を受けて、新たに薬物依存症者の家族のケアを充実していきたいと思っています。

**柴山代表** 家族にもケアが必要なのですか。またどのようなケアをお考えなのですか？

**友杉さん** 薬物依存症者を持つ家族も多くの悩みを抱えています。特に子どもが依存症で、親が悩むケースが多いですね。家庭内暴力の問題、また薬物を使う子どもが不安で、なかなか外出もできないご家族もいらっしゃいます。体力的にも、精神的にも辛い状況にも関わらず、薬物依存症に対する社会的な偏見が強いという方が多いです。「京都ダルク」では、家族への精神的なサポートを充実しようとして今年から個人カウンセリングを始めました。悩みを話されて楽になった方、一緒に考える場所ができ前向きに頑張ろうと思えた方、様々です。誰かに相談できると、とても楽になれるものです。家族にも相談窓口があると、すべての家族に知ってもらいたいです。

**渋谷さん** 相談しづらい内容だからこそ、専門カウンセリングがあるという情報は本当に必要ですね。具体的に助成金の使い道はお考えなのですか？



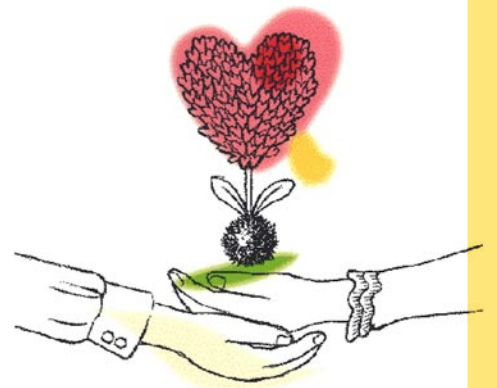
カウンセラー歴15年の友杉さん。アメリカの大学で、薬物依存のカウンセリングについて学ばれた。

**友杉さん** この機会に「ご家族のためのワークショップ」を数多く開催したり「京都ダルク」の家族ケアの紹介リーフレットを作成する予定です。薬物依存症者の家族ケアについて、広めていきたいと思っています。

**柴山代表** 私も今回、「いのちの基金」の助成先には選んではいただいて「京都ダルク」の活動を始めて知りました。私たちの「いのちの基金」は、人の生きづらさを解消し、いのちを支えることができるような事業に助成することが目的です。薬物依存症者のご家族にとって、誰にも相談できない状況が続くのは本当に生きづらいことだと思います。家族ケアの情報普及に役立つのであれば、私たちの「いのちの基金」にも大変意味があると感じています。助成させていただく期間は、本誌「Life Like」でも是非紹介させてもらいたいですね。



「3年間の助成期間、役に立てばうれしい」と話す[エスアールエム]柴山代表。



※CSRとは、Corporate Social Responsibilityの略で企業の社会的責任と訳されています。